

投資家のセンチメント改善は継続するのか？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 足元で投資家心理は改善傾向に

2022年前半相場は米国株を始めとしたリスク資産が大きく値下がりし、米国債も大幅下落となるなど波乱の展開となりました。ただ、年後半相場入りとなった7月には、ハイテク株主体のNASDAQ100が月間で12.6%の上昇と2020年4月以来の大幅高となり、米長期金利も低下するなど、市場の潮目が変わりつつあるようにもみえます。

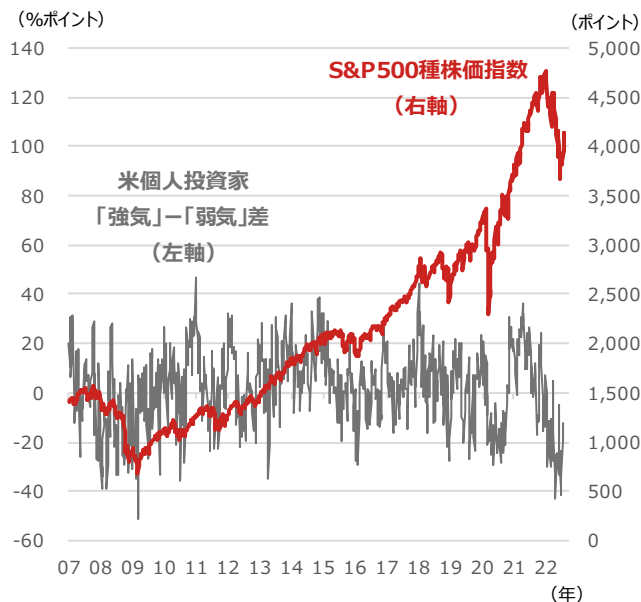
米個人投資家のセンチメント指標をみると、「弱気」比率が低下し、足元で先行きを「強気」とみる投資家比率が上昇しており、市場心理の改善とともに、株価も戻り歩調を強めています（右上図）。

ポイント② 市場予想通り物価抑制進むかが焦点

投資家心理改善の背景にはFRB（米連邦準備制度理事会）の利上げペースが鈍化するとの見方が市場で広がっていることがあります。ただ、市場とFRBの金利予想にギャップがある点には注意が必要です。FF（フェデラル・ファンド）金利先物からみた市場が予想する将来の同金利は2022年末に3.24%、2023年末には2.76%（ともに8月1日時点）と見込まれています。一方、パウエルFRB議長は7月FOMC（米連邦公開市場委員会）後の記者会見で、6月FOMCで示した2023年の利上げ継続見通しが有効との姿勢を示しています。

市場の予想通りインフレが鎮静化に向かい、FRBが来年にかけて「利上げ停止→利下げ」姿勢に転じれば、待機マネーとされる過去最高水準の米MMF（マネー・マーケット・ファンド）から株式に資金が流入することも期待できます（右下図）。当面は8月10日に発表される米CPI（消費者物価指数）などインフレ指標を見極めながら、リスク資産の見直し余地を探る展開が想定されます。

S&P500と米個人投資家「強気」-「弱気」差



期間：（S&P500種株価指数）2007年1月5日～2022年8月1日、週次
（米個人投資家「強気」-「弱気」差）2007年1月4日～2022年7月28日、週次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と米MMF残高



期間：（S&P500種株価指数）2006年1月6日～2022年8月1日、週次
（米MMF残高）2006年1月4日～2022年7月27日、週次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一的見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。